

# ふつうの暮らしが、 あたりまえに残るよろこび

農村力を活かした地域資源連結循環型のまちづくり





池田町にとって「自然や環境」さらには「自然や環境とつながった生活文化」は、なによりも大切な「宝」であり、「誇り」です。

清き水、きれいな空気、肥沃な土、豊かな文化。この池田町という環境を、守り、育て、次世代へ伝えたい。これが、私達の環境行動を支えています。

そして、この活動は、環境そのものに私達会員が働きかけるだけでなく、この町で暮らす人たちへ積極的に働きかけて、池田町全体で行っていくようになることを目標としています。

つまり、私達は「環境」を切り口にして、まちのあり方だとか、私達の暮らし方や、生き方そのものについても、広く考え、未来へつなげていこうと活動しているのです。

21世紀は環境の世紀といわれていますが、それは「人と自然との関係」すなわち「人の意識と行動の関係」が問われる世紀なのだということができると思います。

「環境」という言葉は、もともと私達の身の回りすべてをさしています。「環境」とひとこと言っても、ほんとうに様々なものが含まれています。ですから、この漠然とした環境というものに対して、いかに具体的なアイデアを出し、人の意識や行動へと結びつけて、関係を変えていくかということが、大きなテーマ となってくるのです。

こうした「意識を変える」「行動を変える」「環境がよみがえる」といった意味を込めて、私達の取り組みを「かえるプロジェクト」と名付けました。

私達は、まず自分から、次は仲間と一緒に、また行政も巻き込んでいくというよう取り組みを広げていこうと考えています。そして、お互い様の心で助け合いながら、様々な環境行動を試みてきています。

池田町は、福井県の東南部に位置し、岐阜県と接する典型的な中山間地域です。

町の中心を清流足羽川が流れ、日本の滝百選に選ばれた龍双ヶ滝、残したい自然百選に選ばれた冠山などがあり、のどかで、ゆたかな日本の農村風景が広がるまちです。

池田町には、全国にある「まちやむら」とくらべ、超一流のものはありません。でも、私たちの町には、すばらしい「宝」があります。それは、現在の日本が失いつつある、環境と共生する知恵と工夫に満ちた「あたりまえの生活」、そして「ありがたい」「もったいない」と思う心で資源を循環させていく、昔ながらの暮らし方が、今なお残っているということです。

時代の流れも勘案しながら、まち全体で、このような暮らしを大切に、「宝」として未来へ残したい。

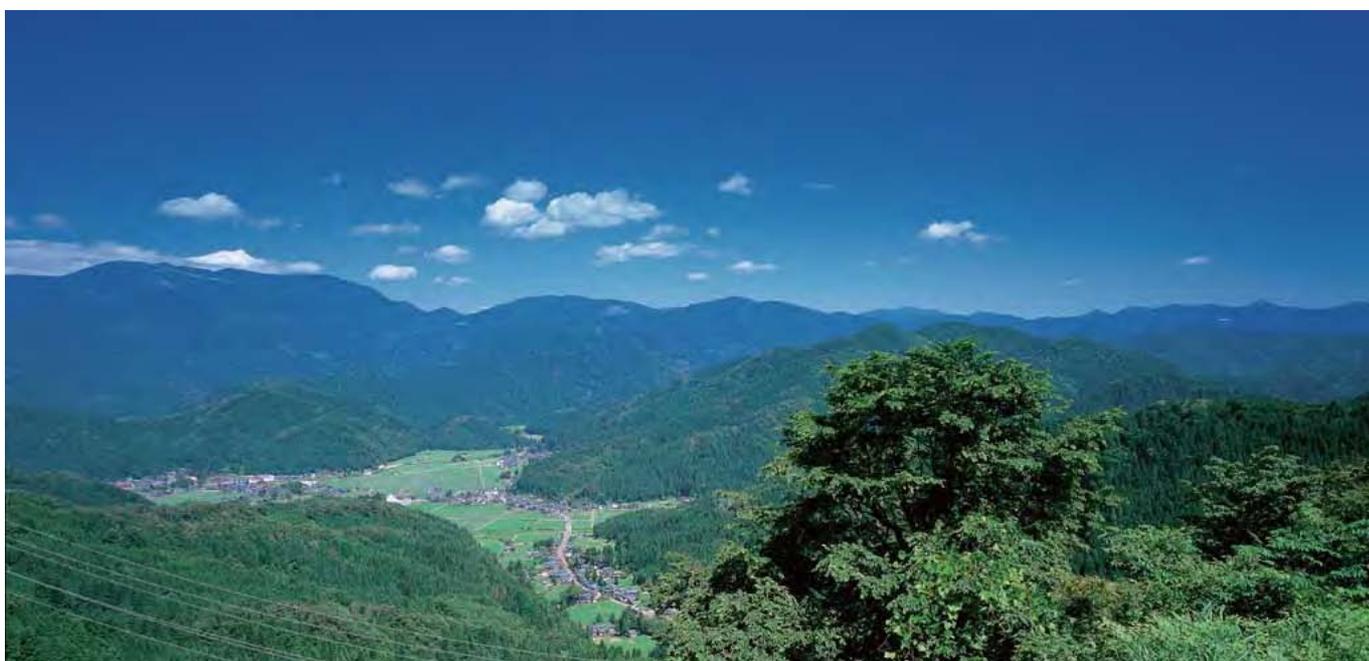
これが、私達の願いです。

# 目次

池田町概要	3	環境啓発イベント・研修	55
地勢		エコキャンドル	56
人口		いけだ環境町民集会ほか	58
産業等			
町づくりの指標		教育との連携	61
環境への取り組み	6	池田学	62
町内プロジェクト一覧		食育活動	64
		エコポイントキッズキャンペーン	66
環境向上基本計画	8	「ふつうの暮らし」を地域の力に	69
かえるプロジェクト		山里の「農村力」を活かす	70
		風土料理への取り組み	72
地域資源連結循環型農業	11	日本農村力デザイン大学	74
食Uターン事業	12	池田を支える人の力	77
ゆうき・げんき正直農業	14	NPO法人環境Uフレンズ	78
こっばい屋	15	環境パートナー池田	78
菜の花プロジェクト	16	まちおこし21	79
特別栽培米プロジェクト	18	NPO法人農村力デザイン研究所	79
住民をまきこむ仕掛けづくり	21	あゆみの会	80
エコポイント事業	22	池田清掃ボランティア I S V	80
かえる通信発行	26	池田町アメニティ活動推進員	80
いけだ環境家計簿	28	池田町商工会	80
資源循環の仕組みづくり	31	池田町振興開発課・環境向上推進室	80
ゴミ減量化への取り組み	32	池田町地域活動連絡協議会	80
みんなのエコステーション	34	池田町農林公社	81
再生アタック100運動	36	池田ファーマーズクラブ	81
資源回収活動	38	101匠の会	81
環境配慮型イベントの開催	40	木まま倶楽部	81
木を使った取り組み	42	J A 婦人部	81
環境保全・美化活動	45	池田町アクセスガイド	82
川クリーン大作戦	46		
セイタカアワダチソウ駆除活動	48		
その他の環境保全・美化活動	50		
水生生物調査活動	52		



# 池田町の概要





# 池田町概要

## 地 勢

福井県池田町は、福井県の南東部、岐阜県境に位置し、総面積 19,472ha、38 集落からなり、東南部は部子山（1,464m）から冠山（1,257m）を経て岩谷山を結ぶ山岳地帯に囲まれた小盆地の町で、山林面積が 91.7%を占めています。

中央部には、約 450ha の肥沃な耕地を有します。

冠山を水源とする足羽川に、魚見川、水海川、部子川が合流して、福井市へ流れる源流のまちで、流域に集落が点在しています。

町内外のアクセスは、公共交通としてはバスのみで、1 日数本と少なく、自動車交通が基本の地域です。

近接するインターチェンジは、福井 I C、鯖江 I C、武生 I C からそれぞれ 30 ～ 45 分程度、関西中京都市圏へ、3 時間程度でアクセスすることが可能です。

## 人 口

平成 18 年 7 月 1 日現在で、人口 3,566 人、世帯数 1,106 戸と、人口・世帯数ともに年々減少を続ける過疎の町です。

一方、高齢化は急速に上昇しつづけ、平成 18 年 4 月 1 日現在で 37.6%と、県内 1 位の高齢化率となっています。

## 産業等

農林業は、経済構造の変化や少子・高齢化から厳しい状況にありますが、大半の住民が農地・山林を保有している点で、基幹産業です。ただし従事者数では、製造業・建設業従事者が多くなっています。

観光については、年間で 10 万人を切る水準です。

## 町づくりの指標

町民意識調査では、「町のイメージ」「町の自慢・誇り」について、「豊かな自然・歴史・文化」や「人情味」という回答が高く、さらに「まちづくりの主体・関わり方」については、「行政との協働」への関心度が高くなっていました。

池田町が抱える様々な問題に対し、すべての人が健康で豊かに、自然と調和・共生しながら、安らぎのある暮らしを営み、人々が集い交歓する活力に満ちたまち。美しく、風格あり、安全で、安心して暮らせるまち。このように池田町の将来像をとらえ、第 4 次池田町総合振興計画の目標を、次のように決めました。

### 「風格ある、美しいほっとランド池田」

今後は、町民と行政とが自助・公助・共助の役割分担のもとで、地域固有の資源（自然・文化・人情）に住民独自の知恵と工夫を加えて地域総合力を発揮・発展させていくまちづくりを展開したいと考えています。

# 風格ある、美しいほっとランド池田

風格ある＝文化、伝統の誇りと継承

美しい＝自然・景観・環境、そして心の美しさ、情操教育

ほっと＝安全・安心な暮らし、温かさ、生活環境、福祉

ランド＝森林、農地、産業

## 安らぐ

### 心がふれあい、安らぎのあるまちづくり

将来を担う子供が心身ともに健康で、高齢者がいつまでの健康であるように、福祉・保険・医療などの生活支援サービスを充実させるとともに、人と人がふれあい、健康で安らぎのあるまちづくりを目指します。

## 育む

### まちぐるみで池田学\*を育むまちづくり

まち全体を池田学のキャンパスと位置づけ、「いつでも」「どこでも」「誰でも」地域の歴史文化や自然と調和・共生した暮らしを自主的・主体的に育むまちづくりを目指します。

## 支える

### 潤いを守り、未来を支えるまちづくり

池田町の緑豊かな自然環境を育むために、潤いと安らぎのある環境先進農村を目指し、町民生活ににぎわいと活力を産む基盤整備と景観に配慮した「池田らしさ」を守り、支えるまちづくりを目指します。

#### 【池田学】

池田固有の自然・歴史・生活文化を掘り起こし活用することや、地域環境・社会福祉など、地域独自の課題を克服するため、全町民とともに学習すること。

#### 【地域資源連結循環型社会】

地域の自然・文化・生活等の資源を活用、連結させることにより、環境に負荷をかけず地域の中で循環させ、有効なものを生み出す社会。

## 活かす

### 魅力・活力・創意を活かしたまちづくり

地域の環境と資源を循環させ、住民の創意と知恵を結集し、農業の総合産業化と、魅力ある林業の振興により、所得の向上と経営の安定化を図り、さらには商工業・観光が一体となったまちづくりを目指します。

## 満たす

### 豊かな暮らしを満たすまちづくり

自然を活かし、安らぎと観光で安心して暮らせる地域資源連結循環型社会\*と、地域景観美化に努める心を育てるとともに、暮らしを満たすまちづくりを目指します。

## 進む

### みんなで進めるまちづくり

集落づくりから地域づくりの支援、情報公開や行政参加の機会を充実させ、行政の効率化と、住民とともに進めるまちづくりを目指します。





# 環境への取り組み

## 地域資源循環型農業

食Uターン事業  
ゆうき・げんき正直農業  
こっぽい屋  
菜の花プロジェクト  
特別栽培米プロジェクト

## 住民を巻き込む仕掛けづくり

エコポイント事業  
かえる通信発行  
いけだ環境家計簿

## 池田町環境向上

# 人と自然、心がかよう

## 資源循環の仕組みづくり

ゴミ減量化への取り組み  
みんなのエコステーション  
再生アタック100運動  
資源回収活動  
環境配慮型イベントの開催  
木を使った取り組み

## 環境保全・美化活動

川クリーン大作戦  
セイタカアワダチソウ駆除活動  
花いっぱい運動  
不法投棄監視活動  
野焼き防止活動  
水生生物調査活動

## 「ふつうの暮らし」を地域の力に

山里の「農村力」を学び活かす  
風土料理への取り組み  
日本農村カデザイン大学

## 基本計画

エコトピア  
環境理想郷

## 教育との連携

池田学  
食育活動  
エコポイントキッズキャンペーン

## 環境啓発イベント・研修

エコキャンドル  
いけだ環境町民集会  
その他学習会・研修

めざすのは  
みんなで力を出し合って  
自分たちのまちを、未来をつくる  
「輪」のつながり。

# エコトピア 人と自然、心がかよう環境理想郷

ーかえるプロジェクトー

## 経緯

平成14年、町内の一般住民100人でつくった「100人のパートナー会議」。今までのように行政主導の計画づくりではなく、住民自身が、「ふるさとの環境をいかに守り伝えるか」「自分たちにできることには何があるか」について考え、「土」「緑」「水」「大気」「生態系」「暮らし」の各ブロックに分かれて話し合い、住民主体のプランとしてまとめあげました。

この「100人で作った環境向上基本プラン」を基にして、平成15年9月、池田町環境向上基本計画が策定されました。

## 特徴

この計画の大きな特徴は、実践行動計画「かえるプロジェクト」が明記され、それぞれのブロックについて、

「自助」一人ひとりがはじめていくこと

「共助」みんなで力を合わせてすること

「公助」行政が施策として取り組むことの役割分担が明確にされている点です。

## 策定の意義

この計画を策定する意義と価値は、池田町の環境向上行動の基本指針を定めるとともに、町民が環境に対する意識を改め、行動を改革するきっかけとすることにあります。

実際、この計画の素案である「100人で作った環境向上基本プラン」策定を契機に、「100人のパートナー会議」のメンバーの中には、自らの意識を変え、周囲を巻き込んで、新たな行動に挑戦し、まちづくり運動としてこの取りくみを充実したものにしていこうと立ち上がった方もいます\*。

人任せにせず、地域全体のために、一人ひとりが汗を流し、声をかけあって、歩みを確実に進めていくことこそが、池田町を輝くまちに育てていくことになるのです。

## 基本的な考え方

池田町に残された、豊かな自然、歴史、文化、そしてここに暮らす人々のコミュニティ。この「宝」を守り、伝えたい。

自然が織りなす神秘的な生態系。昔から受け継がれてきた自然と共存する知恵。お互い様で手を取り合いながら築く社会。さまざまなつながりを持ち、心を通わせあいながら、新しいまちを創り上げていくことが、何より大切です。

環境を、人と自然との関わりだけに限定せず、「人と人」「人と自然」「自然と自然」の関わりも考慮した実践行動を通して、住みよい町、子どもたちが誇りに思えるまちを創ることを宣言します。

## 基本理念

エコトピア  
「人と自然、心がかよう環境理想郷」

\*100人のパートナー会議は、平成15年3月に町長報告会をもって解散しましたが、ここが土台となり、平成15年7月、環境行動実践団体「環境パートナー池田」が設立されています。

「池田町総合振興計画」  
風格ある、美しいほっとランド池田

「池田町環境向上基本計画」  
人と自然、心がかよう<sup>エコトピア</sup>環境理想郷

自 助 (住民の行動)

生活からの環境向上

【みんなで始める6箇条】

- 第1条 ゴミを減らす
- 第2条 野焼きをやめる
- 第3条 水を守る
- 第4条 森・水・土を守る
- 第5条 不法投棄を防ぐ
- 第6条 みんなで進める

公 助 (行政の支援)

制度設計  
条例の制定・運用  
プロジェクト事業の  
企画提案・推進  
財政的支援  
環境団体の支援

共 助 (パートナーシップ)

地域、家庭、学校、職場、ボランティアなど、  
みんなが力を出し合い協力し、  
行政とも協働して実践する環境プロジェクト事業



## 地域資源連結循環型農業



# 紙袋と心でつなぐ農業の輪

—食Uターン事業—

池田町では早くから牛糞たい肥を利用した米（有機米）づくりに取り組んできました。一層の地域資源との循環を図り、平成 14 年 11 月、たい肥センター「あぐりパワーアップセンター」が完成。家庭の生ゴミを「資源」と位置づけ、牛糞ともみがらを混ぜて良質のたい肥に甦らせるプロジェクトが立ち上がりました。

各家庭では、水切りや食品以外のものの分別を徹底し、新聞紙 2 枚程度でくるんだ生ゴミを指定の紙袋に入れ、毎週月・水・金とゴミステーションに出します。

これをNPO法人環境Uフレンズが専用の回収車「あぐりパワー号」で回収しています。

町内の生ゴミは回収されると、「食品資源」として魚見のあぐりパワーアップセンターへ運ばれます。ここで、牛糞、もみがらと一緒に、たい肥（完全無化学の有機肥料）『土魂壤』として生まれ変わります。

また最近、たい肥製作過程での発酵時の蒸気から有機の液肥『土魂壤の汗』もつくられるようになりました。

できあがったたい肥などは、町内の農家や一般家庭で使用されるほか、福井市のベルにあるアンテナショップ「こっぼい屋」でも販売されています。

このたい肥とゼオライト等を混ぜた園芸用の土『土魂壤の土』も開発・販売されるようになりました。

そして町内では、このたい肥を混ぜ込んで、安心・安全な農作物を作る取り組みが進められています（ゆうき・げんき正直農業：P12、特別栽培米：P14など）。このようにして、「食」はまた「食」として戻り、地域資源が「輪」となつてつながっていきます。

単純だけどなかなか真似できないのが、この「輪」のしくみです。

生ゴミを分別し、食品資源として出す町民、回収するボランティア、たい肥に再生するパワーアップセンター、たい肥で作物をつくる農家、農作物や肥料を売る販売店、そして良質なものを買い求める消費者。どれが欠けてもこの「輪」は成り立ちません。

池田町が目指しているという「地域資源連結循環型農業」は、「モノ」のリサイクルだけでなく、この「輪」のしくみによって、人々の暮らしや行動、そして人の心もつながつて、循環していくということなのです。

一次発酵で40日、二次発酵で60日、のべ100日かけて完熟堆肥に。異物を取り除き袋詰めして「土魂壤(どこんじょう)」の完成です。

液肥は発酵時の蒸気を集めて作ります。こうした液は悪臭を放つ汚水にしかならないことが多いのですが、ここでできるものはほとんど臭いません。

そして成分も優れていたため、有機栽培が可能なたい肥液肥として、県から認可されました。



生ゴミをたい肥化

こっぽい屋の食品販売は、毎年1億円を超える売り上げがあります。H13年には全国の平和堂内テナントの中で最優秀賞を受賞。「安くて安全で新鮮な」野菜や山菜が評判で、主婦はもちろん飲食業者などが朝一に並んで買い求めます。午後2時ごろまでに7割売れてしまいます。売店に立っていると午前中はほとんどレジが途切れないそうです。



土魂壤に県産ゼオライトなどを加えた、そのまま使えるたい肥入りの土「ゆうきの土」はH17年発売の商品。食品売り場での販売ということで敬遠されないか心配でしたが、ことのほか好評で、品切れて追加補充に走った日もあったとか。姉妹品の有機液肥「ゆうきの液肥」も自信作です。

こっぽい屋

たい肥・液肥・土の利用  
ゆうき・げんき正直農業  
による農作物の消費

あぐりパワーアップセンター

NPO法人 環境Uフレンズ

食品資源の回収



有償ボランティアです

生ゴミを分別し  
食品資源として提出



家庭の台所から出る普通の「生ゴミ」を、分解できる食品と、紙や袋の切れ端とをきちんと分別し、よく水切りします。



新聞紙2枚程度で包み、指定の紙袋に入れて、紙ひもでしばります。



集落ごとのゴミステーションに出します。

食の心や行動も循環する  
食の循環の輪

ゆうき・げんき農家

たい肥・たい肥液肥・土の利用  
「ゆうき・げんき正直農業」の展開



たい肥・液肥・土の利用  
ゆうき・げんき正直農業  
による農作物の消費

池田町のみなさん

# 笑顔があるから、がんばれる

—ゆうき・げんき正直農業—

池田町では、農業分野からのアプローチとして、「環境のまち」実現に向けた独自の農産物認証制度「ゆうき・げんき正直農業」を平成12年よりスタートさせました。

「ゆうき・げんき正直農業」は、化学肥料や農薬に頼らず、土本来の力を引き出していく栽培方法で、食べる人と作る人の健康を考えながら、楽しく、そして自然や人に優しい農業を目指しています。

池田町では大半の世帯が農地を保有し、その多くが米づくりを行う兼業農家となっています。園芸作物の専業農家はほとんどなく、野菜は主に自家用として、有機・減農薬に近い形で栽培されてきていました。こうした農業形態を上手く生かす形で、認証制度を創設、取り組みへの参加を促しています。

現在は右表のように3段階で展開し、それぞれ認証シールを交付しています。

また、「ゆうき・げんき正直農業」の特徴として、「少量多品目」が挙げられます。

1種類の農産物を百人に作らせて特産品化する「一村一品」ではなく、百人それぞれが作った一つひとつを持ち寄り、多様な農産物を展開する「百匠一品」方式です。みんなの力を持ち寄って大きな価値と魅力を生み出すことを目指しています。

また、「ゆうき・げんき正直農業」を通して、池田町の農村文化も広くアピールし、農産物の付加価値だけでなく、池田町の付加価値を高めて発信しています。

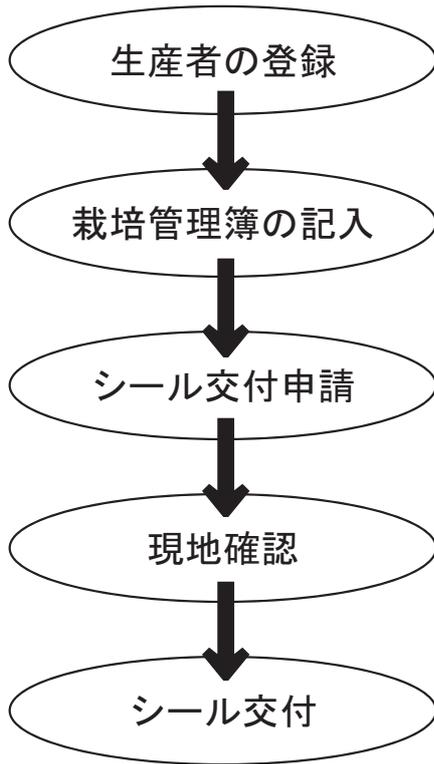
「ゆうき・げんき正直農業」認証農産物は、福井市内のショッピングセンター内に店舗している「こっぼい屋」（「こっぼい」とは池田弁で「ありがたい」という意味）で販売され、人気を得ています。

開店と同時に、入り口で並んで待ってくださっていたお客さまたちが、駆け込んできて、次々と買ってくださいます。多いときにはレジ待ち20分ということもあるほど。何度も買いに来てくださる方も多く、生産者のシールを見て、名指しで買っていかれるお客さんもいます。

「こっぼい屋」の大きな特徴は、新鮮な野菜や加工品の直売だけでなく、池田町の農家の人たちが、町の食文化や郷土料理のPRを行っている点です。

訪れた方に、旬の食材そのものだけでなく、それらのおいしい調理方法や保存・加工方法、さらには、池田の人のぬくもりや、池田に広がる農村文化の素晴らしさも、一緒に持って帰ってもらっているのです。

## ゆうき・げんき正直農業 生産者管理システム



看板設置



栽培管理簿の記入

土づくり、たい肥活用方法、草マルチの利用等を、指導を受けながら実施



シール交付申請

栽培管理簿を添えて申請

現地確認

池田町、農林公社、農協、県の連携



シール交付

## ゆうき・げんき正直農業 シール交付基準

<p>黄色</p> 	<p>低農薬・無化学肥料栽培</p>	<p>作物ごとに管理 農薬は1回まで 除草剤・化学肥料は一切使用しない</p>
<p>赤色</p> 	<p>無農薬・無化学肥料栽培</p>	<p>圃場ごとに管理 農薬・除草剤・化学肥料を一切使用しない (その年の最初の申請時に宣言する)</p>
<p>青色</p> 	<p>完全有機栽培</p>	<p>3年間連続して赤色の交付を受けた圃場 4年目から交付</p>



### 生産者の組織「101匠の会」

こっぼい屋へ出荷するための生産者の組織で、会員数は、個人が173名、団体が11団体加入しています。個人の家族の笑顔のためにと作ってきた「正直野菜」を、まちの人たちの笑顔のために、毎日安全・安心な野菜作りに取り組んでいます。

# 愛でて、味わって、CO2削減

—菜の花プロジェクト—

## 菜の花による景観づくり

かつてはどこの家にも、灯り取りのために植えられていた菜の花。最近ではごくわずかに食用に作られる程度ですが、この菜の花を、転作など農地の有効利用に活用しようという取り組みが「菜の花プロジェクト」です。

春に一斉に咲く一面の菜の花の美しさも楽しみ、収穫された菜種からは上質の食用油が取れます。そして、絞りかすは肥料になりますし、廃油はバイオディーゼルとして再生が可能です。このように菜の花は、地域資源循環の大きな環をつくりだすことができる作物なのです。

## 菜の花栽培と商品化

池田町内では、まず、平成 17 年度に菜の花の試験栽培（2ha）を始めました。池田町の土壌や気象条件にあった栽培方法を検討しつつ、生産技術や輪作体型との関係など、福井県農業改良普及センターの指導も受けながら進めています。

豪雪のために生育が遅れるなどの影響も受けましたが、町内各所に美しく咲く菜の花畑が広がりました。道行く人々の目を楽しませ、新しい名所（景観資源）としても期待できそうです。また、菜種油としては約 220kg の収穫があり、商品として売り出す予定です。

なお平成18年度は、菜の花同様に景観・環境保全・温暖化防止に役立つヒマワリの栽培も試みました。通年での運営に努めていきます。

## 廃食油の回収・再生・利用

菜の花プロジェクトの一環として、池田町内で使用済食用油の回収を、平成 17 年より開始しました。

家庭内で破棄される天ぷら油を、町内のガソリンスタンドで集め、町内の飲食店で消費された廃油とともに、毎週木曜日に回収しています。回収は食Uターン事業で食品資源（生ゴミ）回収を担当している NPO 法人環境Uフレズが行っています。

回収された商用油は、提携先の滋賀県内のガソリンスタンドへ運ばれ、バイオディーゼル燃料（BDF）として再生されます。

再生された BDF は、食品資源回収車「あぐりパワーアップ号」や池田町の公用車の動力エネルギーとして活用されています。

現在の菜の花プロジェクトによる主な成果としては、次のようなものが挙げられます。

- 1) ゴールデンウイークに咲く一面の菜の花を、観光資源として活用できる
- 2) 菜種油と油かすは、地産地消の高級食材や有機農業の肥料として活用できる
- 3) 個人や飲食店からの廃油の回収作業により、環境意識が向上する
- 4) 再生したバイオディーゼルを利用することにより、地球温暖化防止を推進できる

# 菜の花プロジェクト概略図



菜の花栽培



資源化

土魂壤（たい肥）  
バイオディーゼル



商品化

たい肥

絞るかす

菜種油



廃油や生ゴミの回収



食べる

エコステーション

町内飲食店  
家庭の食卓  
学校給食



# 生命にやさしい米づくり

## ー特別栽培米プロジェクトー

環境への取り組みや地域資源循環型農業など、様々な活動を展開している池田町。これらの活動をさらに発展させ、池田町内の米全体へ広げようという取り組みです。平成 18 年度から本格的に始動しています。

池田町は、すでに「ゆうき・げんき正直農業」という形で特別栽培に取り組んできた実績があります。米の特別栽培については、平成 4 年から始まり、約 15 年のノウハウがあります。

環境配慮の米づくりは、米単体の食味や品質を上げるというだけでなく、田んぼ周辺の土や水に住む生き物、また大気など、広範囲に大きな影響を与えます。

環境に優しいということは、様々な生命にやさしいということ。池田町では、この特別栽培米プロジェクトを、「生命にやさしい米づくり」運動と名付けました。

「生命にやさしい米づくり」運動では、農薬や化学肥料を可能な限り減らした（無化学肥料無農薬を目指した）特別栽培米を、作り手の農家、町や公社、また食べる側の消費者も一体となって、町全体で育てていこうとしています。平成 18 年度は、町内の 3 分の 1 の水田が、この対象となりました。最終的には、池田町の全水田で栽培され、「生命にやさしい米づくりの郷」を創造することで、池田町産の米の価値を高めることを目指しています。

主な取り組みとしては、以下のものが挙げられます。

### 1) 町全体で統一した栽培基準の設定・認証

「ゆうき・げんき正直農業」と同様、栽培基準を設け、基準により「金」「銀」「銅」の 3 ランクに分け、審査を経て認証します。

### 2) 無農薬無化学肥料を目指した米づくり

できるだけ農薬や化学肥料を押さえ、たい肥や食 U ターンで醸成されるたい肥液肥などを活用した育苗に取り組みます。

### 3) 栽培確認・品質チェック体制の厳格化

農林公社や町・農協と連携し、栽培記録簿の義務化や圃場ごとの食味・品質等のデータを一元的に管理するなどの情報管理を強化し、また栽培時だけでなく、集荷・乾燥調整・保管などの品質基準を明確にし、厳密なチェック体制を確立します。

### 4) 消費者との交流

認証審査など、消費者との合同で活動することにより、「売り手と買い手以上の親密な関係づくり」を図ります。

### 5) 環境の保全

田んぼの生き物調査などを実施します。

### 6) 販売の一本化

専門家をまじえ、池田米のイメージや信頼感、高級感が高まるアピール力を強化します。

# 特別栽培米推進概略図

## 【目 標】

お米とご飯のつながり  
作り手が「食」を育てる意識をもつ

田んぼと生き物のつながり  
農業があることで自然が守られる

育てる人と食べる人のつながり  
農業を維持する力と、美味しいご飯を食べて健康になる力を育む



支援

生命にやさしい米づくり実践農家  
(一般農家・集落営農組織・団体他)

栽培基準の厳守  
トレーサビリティの実施  
栽培確認簿の記録等



施設利用

**池田町**  
財政的支援他  
機械リース事業  
中山間直接支払い  
経営所得安定対策

連携・協力

連携・協力

**環境団体**  
田んぼの環境調査実施等



**米プロジェクトチーム**  
生産指導  
販売促進



生産指導  
認証審査

精算  
販売委託

**農協**  
品質管理  
育苗センター  
ライスセンター  
(乾燥、色選、精米)  
低温倉庫

玄米・精米  
業務委託

支援

**販売窓口  
(穀・穀ギャラリー)**  
情報開示  
食育等の提案

直売

**消費者**  
認証審査への参加  
生産地との交流



